

2020年度 事業計画書





地域に根ざし、世界にはばたく

学校法人桃山学院 理事長 出田 善蔵

桃山学院は1884（明治17）年、英国聖公会宣教協会（CMS）が大坂の川口外国人居留地（大坂市西区）に三一小学校（男子英学校）を創設したことに端を発します。以後、幾多の変遷を経て、昭和町キャンパスに中学校と高等学校、和泉キャンパスに桃山学院大学と大学院を設置しておりましたが、2018年度から設置者変更によりプール学院大学を継承し、新たに「桃山学院教育大学」を開設するに至りました。これにより、本学院として、2大学と高校、中学の4校、新たに加わった堺キャンパスを含め3つのキャンパスで運営することとなりました。それぞれの設置校において、一貫して建学の本旨であるキリスト教精神に基づいた教育を行い、永い歴史のなかで優秀な卒業生を多数輩出し、社会から高い評価を得てきました。

一方で、少子化や社会・経済状況の変化により、私学をとりまく環境は年々厳しさを増し、本学院も少なからずその影響を受けておりますが、伝統ある本学院の事業をさらに発展させるべく堅固な経営基盤の構築を図ってまいります。2017年度から始まった学院全体のガバナンス体制強化に向けての検討は、理事会、理事長および各学校長の権限と責任の明確化を図り、法人および各学校における迅速な意思決定によって学院の運営がより円滑となるよう、その体制整備を推進してまいります。

また、桃山学院大学、桃山学院教育大学における学生入学定員増の取り組み、同時に桃山学院大学における大学中期計画で示されている教育の質向上に向けた取り組み、桃山学院教育大学および中学・高校におけるさらなる教学改革の取り組みに向けて、理事会においても強力にバックアップしてまいります。これらを踏まえ、2020年度は学院全体として中期的な将来構想を策定していく予定です。

施設面では、2020年9月に昭和町キャンパスにおける新棟が完成いたします。桃山学院大学経営学部ビジネスデザイン学科の教場として利用するとともに中学校高等学校の食堂、大阪聖アンデレ教会の礼拝堂を内包する学院を象徴するような建物であり、大いに有効活用したいと考えております。また、学生・生徒の勉学環境と満足度の向上を図るべく、和泉キャンパス（大学）、堺キャンパス（教育大学）および昭和町キャンパス（中学校高等学校）の改修を長期的な観点から引き続き実施してまいります。

教育活動収入としての定員の長期的な確保に加え、補助金収入、寄付金収入、資産運用収入など学生生徒納付金以外の収入の増加を図り、安定的な財務構造の構築を目指します。理事会としても財務面を中心に最大限のバックアップを行い、学院内各学校の永続性および発展性を担保し、かつ教育・研究活動の環境整備を行うに適切な財政対応が必要な時期であることを十分に認識し、ここに2020年度の事業計画を策定しました。各事業計画については、PDCAサイクルを十分に稼働させ各々の計画の達成度を確認し、達成できなかった場合はその原因と改善策を探り、より有効なものとなるように進めてまいります。これにより教職員の意識改革も図っていく所存です。

社会からより評価される学院となることを目指し、教職員が一体となって鋭意努力してまいりますので、皆様方の一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

CONTENTS

理事長メッセージ.....	1	桃山学院教育大学事業計画.....	4
桃山学院大学事業計画.....	2	桃山学院中学校高等学校事業計画.....	5



事業計画の策定にあたって

桃山学院大学 学長 牧野 丹奈子

桃山学院大学は、「キリスト教精神に基づく世界の市民の養成」を建学の精神に掲げ、1959年に開学し、昨年、開学60周年を迎えました。2019年4月に経営学部ビジネスデザイン学科を大阪市内（Osaka Metro 本町駅）に開設し、11月17日（日）には、和泉、泉大津、河内長野、岸和田の各市長をお招きして『南大阪4市と桃山学院大学との「4つの約束」』と題したシンポジウムを開催しました。

いま社会ではIoT、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータなどの技術革新が急速に進んでおり、経済発展と社会的課題の解決を両立させる新たな社会（Society 5.0）の実現に向かっていきます。このような変化の激しい時代に生き抜くためには、学力に加えて、以下の3つの力を身につけることが重要と考えています。

- ①<創造力>・新しい知識・考え方や価値を自らつくり出す力
- ②<共感力>・多様な人々とコミュニケーションし共感をつくり出す力
- ③<実践力>・責任を持って踏み出し実現する力

2017年度から5カ年計画で取り組んでいる大学中期計画も4年目となりました。2020年度も「桃大ブランドの復権」と「桃大の飛躍」を二本柱とした各種の取組を実行することで、「地域で、世界で、人を支える」ビジョンの実現を目指してまいります。

■ 2020年度主な事業について

<初年次教育の改革>

- ① 入学後早期より面談を実施し、学生生活の充実と不安解消を図ります。また、各学部においては、学部独自の初年次生向けの取り組みを実施し、その効果を検証し、次の取り組みへ反映させることによって、初年次の取り組みに関するPDCAサイクルを稼働させます。
- ② 共通教育の新カリキュラムの受講状況を検証し、各学部・学科の専門教育にスムーズに接続できるように整備します。

<創造力、実践力を高める教育の推進>

- ① 開設2年目を迎える経営学部ビジネスデザイン学科は、企業・行政・団体・地域との連携をさらに強め、学生の声を参考にして、より創造力と実践力を高められるように教育内容を充実させます。新キャンパス（通称：あべのキャンパス）にて、2021年4月に新たにビジネスデザイン学部（入学定員200名）を設置（※）します。
※認可申請中。
- ② 2021年度より経営学部経営学科において、知識や理論の学修とそれを活用する実践教育を学生目線で組み込んだ新カリキュラムを実施し、教育内容の充実を図ります。

<情報のオープン化の推進>

- ① 2019年度より実施の「教育力向上プロジェクト（※）」をさらに進め、各組織単位においてPDCAサイクルが適切に機能する内部質保証の体制を構築します。
※大学全体、学部・研究科、授業科目単位で自己点検・評価活動を進め、教育力の改善を目的とした取り組み。
- ② 情報公表を進めるにあたり、「教学マネジメント指針（令和2年1月22日中央教育審議会大学分科会）」のV情報公表で例示された学修成果・教育成果に関する情報を参考にしながら、本学が有益と考える学修成果・教育成果の情報を社会への公開を前提に整理します。

<地域住民・学生の地域連携による体験型学習支援>

2019年11月に、本学が所在する南大阪エリアの4市（和泉市、泉大津市、河内長野市、岸和田市）それぞれと地域連携に関する取り組みを確認し、「4つの約束」を取り交わしました。2020年度は、それらの約束に基づき自治

体や産業界と連携した正課・課外のプログラムおよび活動を行います。

<文科省「高大接続改革」への対応>

文部科学省で取り組みが進められている「高大接続改革」の取り組みについて、体験と実践を伴う探究的な学びを接合点とした高大接続を推進します。連携する高等学校と実践を伴ったプログラムを実行することで、本学の学びのスタイルを社会に広めます。



事業計画の策定にあたって

桃山学院教育大学 学長 梶田 叡一

2020年度で開設3年目を迎え、学部学科名称を「人間教育学部人間教育学科」に変更いたしました。

キリスト教精神にもとづき、人間教育の理念に沿った教育を目指して、引き続き自分磨きをする学生を徹底的に支援し、結果責任を果たせる大学を目指してまいります。

■ 2020年度の主な事業について

<免許・資格課程の充実と入学定員増>

2019年度の検討結果を得て、2021年度に現在の3コース（小学校教育、幼児保育、健康スポーツ）をそれぞれ課程にし、小学校教育の課程に中学校・高等学校教員免許（国語、英語）資格が取得可能となるように課程認定と、入学定員を現在の175名から270名に増やすための申請を3月に行いました。

今年度は、これらの課程認定ならびに収容定員増の認可を前提に開講に向けた作業を行います。また、地域が抱える教育課題に対応しうる教員を養成するためのプログラムを具体的にカリキュラムとして加えていくことを検討します。

<教員採用試験合格対策>

今年度は教職センターの講師を増員するなど指導体制を強化し、筆記試験、面接等に対応した採用試験対策をさらにすすめていきます。

<公務員採用試験対策>

受験先に応じたきめ細かな対策と指導を行い、昨年度を上回る実績が残せるよう指導にあたります。

<国際交流プログラムの充実>

カンボジア研修、桃山学院大学との連携による海外語学研修、CUAC主催トリニティ大学での研修（火山噴火と新型コロナウイルスの影響により中止）に加えて、今年度においても、学生により多くの経験と学びができるよう研修先を増やします。

<大学院設置の検討>

社会人や現職教員の学びなおし等の要請に応えるべく引き続き2022年度を目途に専修免許状等を取得できるように大学院の設置を検討します。

<堺キャンパスの整備>

2021年度小学校教育の課程に中学校・高等学校教員免許（国語、英語）資格の課程認定および収容定員増の認可に向けて、これに伴う教育環境整備を検討します。

また、昨年度に導入しましたeポートフォリオの活用をすすめていきます。

<桃大との連携強化>

桃山学院大学との具体的な連携の形として検討中の遠隔授業について2021年度からの実施を目指して引き続き検討します。

これ以外にも本学が実施する事業に桃山学院大学からの学生を受け入れ、桃山学院大学の事業に本学学生が参加できるように検討します。



事業計画の策定にあたって

桃山学院中学校高等学校 校長 岡田 賢三

英国聖公会宣教師 C.F. ワレン氏らにより設立された桃山学院は、今年で 136 周年を迎えます。この長い歴史の中で、一貫して桃山学院が目指してきたものはキリスト教精神に基づく人間教育であり、具体的には「神への信仰心・他者への愛・公の精神」の涵養です。そして桃山学院中学校高等学校は生徒一人ひとりの人格と個性を尊重しつつ、真に社会に貢献できる「人間力」を備えた若者をこれからも育成していきます。また、長い歴史の中で創りあげられた自由な校風を大切にしつつ、大学進学実績向上にも教職員一同一丸となって努力します。

■ 2020 年度の主な事業について

<進路指導の充実>

本校の国立合格者数が近年増加傾向にある中で、2021 年度入試は大学入学共通テスト実施初年度にあたることも踏まえ、それに特化した対策を講じ、また逐一情報を提供することで、生徒や保護者の不安感を解消しつつ、生徒自身の第一志望合格を目指し、各教科、各学年団、各コース、進路指導部が連携して綿密な進路指導を行います。

<教員の指導力の向上>

教員の指導力向上のため、相互の授業見学を実施するとともに、外部講師を招き「指導力向上セミナー」を実施します。

<グローバル教育の推進>

本校には約 50 年続く米国聖公会関係学校との交換留学制度がありますが、本年度は新たな留学先校を確保するよう努めます。また、高等学校のマレーシア・台湾・カナダ研修、中学のニュージーランド研修も引き続き実施します。

<SDGs 活動への取り組み>

- ① スクール・バイ・スクール（2001 年に設立された海外に学校を建設するプロジェクト）の活動において、発展途上国に飲料水確保を目的とした溜池も建設します。
- ② リメイク活動（生徒が学内施設を補修する活動）を引き続き実施します。
- ③ 響プロジェクト（AED の普及及び啓蒙活動）・聖バルナバ病院での思春期講座を引き続き実施します。